

結核登録者情報システム

入力項目の説明

2023年7月10日

目次

I. 登録時情報	3
【共通処理区分】	3
【治療の要否】	4
【登録者の属性】	4
【登録までの状況(1)】	10
【登録までの状況(2)】	13
【診断】	18
【合併症】	20
【X線】	21
【細菌学的検査(検体1)】	23
【細菌学的検査(検体2)】	25
【感受性検査結果】	27
【治療状況】	29
【備考】	36
II. 治療中の情報	37
III. 現在時情報	40
【治療の要否】	40
【治療成績】	41
【終了・除外】	46

I. 登録時情報

整理番号	14桁(自動設定)
------	-----------

【自動設定】

新規登録（「感染症発生動向調査システム：二類：結核」で入力した情報を「結核登録者情報システム：発生動向システムデータ連携」で移行）をすると、登録時に自動的に割り当てられて設定される14桁の数字（1～4桁：西暦、5～8桁：保健所コード：9～14桁：保健所の通し番号）です。保健所・県市・国間の個人識別をするための重要な番号です。

【共通処理区分】

登録処理区分	1 本登録 2 仮登録
--------	----------------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。

「登録」「仮登録」から選択します。

「仮登録」の場合の必須項目は「氏名（漢字）」「氏名（カナ）」「登録時期」「登録処理区分」のみです。ただし、「仮登録」は正式な登録ではなく、月報で全体の数として計上されることを除いて統計に反映されることはありません。「仮登録」とした場合は、できるだけ早く「本登録」されることをお勧めします。

登録処理区分で「1. 本登録」を選択すると、登録ボタンによる新規登録処理後、この項目は「2. 仮登録」への変更ができなくなります。

登録状況	1 登録中 2 除外 3 撤回
------	-----------------------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。

【自動設定】登録状況を示します。入力された情報から自動的に決められるので、自分で変更することはできません。「2. 除外」の情報は、年報集計に必要なものもありますので、除外理由が「4 転症・他」を除き「消去」できません。除外者で年報集計の対象となるのは、年報の年（1月1日～12月31日、登録時集計）と年報の1～3年前（各年の1月1日～12月31日、治療成績集計）に登録された者、および年報の年（1月1日～12月31日、除外者集計）に登録除外された者です。「3. 撤回」の情報は発生届の撤回となりますので、不要の場合は「消去」

してください。

登録の時期

年月日（カレンダーor 手入力）

「発生動向システムデータ連携」の作業をしたシステム日付が初期設定されます。必要に応じて訂正して下さい。

結核のために登録を開始した時期（和暦）を入力して下さい。他保健所から転入してきた登録者の場合もあくまでも最初の保健所で初めて登録した時期を意味します。かつて登録された者がいったん登録除外になり、再発などで再度登録される場合には、後の登録についてのその時期を指します。

【治療の要否】

治療の要否

- | |
|-----------------|
| 1 要治療
2 治療不要 |
|-----------------|

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。登録時は必ず「1. 要治療」となります。2回目以降の公費負担申請が不合格の場合や、あるいは何らかの都合で公費負担申請がなされなくても、主治医から結核の治療の指示が出ていれば「1. 要治療」となります。潜在性結核感染症で服薬を続ける場合も同じです。

【登録者の属性】

氏名（漢字）

全角 12 桁（暗号化）

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。登録者の氏名（漢字）を全角 12 文字以内で入力して下さい。

姓と名の間スペースを入れるのは自由ですが、原則として全角単位で入力して下さい。

氏名（カナ）

半角カナ（暗号化）

登録者の氏名（カナ）を半角で入力して下さい。

性	1 男 2 女
----------	------------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。登録者の性別に対応した番号を入力して下さい。

生年月日	年月日（手入力）
-------------	----------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。登録者の生年月日を和暦で入力して下さい。昭和なら「s」、平成なら「h」を入力すると、年月日の入力状態になります。

登録時年齢（入力）	●年●ヶ月
------------------	-------

登録時の年齢（●年●ヶ月）を入力して下さい。「登録」時に、自動的に計算された年齢と同じであるかチェックされ、異なる場合は「登録時年齢（手入力）が正しくありません。」とエラーメッセージが表示されます。年号等の入力ミスを解消する目的です。

登録時年齢（歳）	自動計算
-----------------	------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。生年月日と登録時期が入力されると、自動的に計算された年齢が表示されます。

登録時月齢（月）	自動計算
-----------------	------

生年月日と登録時期が入力されると、自動的に計算された年齢が月齢で表示されます。

自由1：担当区／者	1～99
------------------	------

リストから選択します。コードとそれに対応する内容は「メインメニュー・基本処理」の「自由設定項目管理」で設定します。なお空白が当初から設定されており、空白の選択も可能です。

住所

全角 30、半角 60

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。登録者の住所を全角漢字・仮名・数字などで入力して下さい。

市町村コード

プルダウン選択

市町村コードをリストより選択、または市町村に対応したコードを直接入力して下さい。リスト上には、当該保健所の管轄する市町村コードのみ表示されます。この項目は、登録者の住所の変更に応じて、常に新しいものに更新して下さい。

出生国

- 1 日本生まれ
- 2 外国生まれ
- 3 不明

リストから選択します。親が日本人であっても、外国で出生した場合は「2 外国生まれ」となります。また、親が外国生まれであっても日本で出生した場合は「1 日本生まれ」となります。結核対策上の重要課題である外国出生患者の動向把握等のための基礎情報となります。

入国時期

●年

「出生国」が「2 外国生まれ」の場合にのみ、入国時期（年）を入力して下さい。厳密な入国時期がわからない場合においても、おおよその時期でも重要な情報となりますので（およそ10年前等）入力して下さい。入国後すぐの発病であれば母国での感染または発病が疑われ、入国後時期がたってからの発病であれば日本国内での感染の可能性もあり、外国出生結核患者の対策に有用な情報となります。

国名

コード（3桁）選択
未入力も可

「出生国」が「2 外国生まれ」の場合にのみ、リストから選択可能となります。国名は未入力も可能ですが、可能な限り出生国について情報入力してください。出生国別の患者動向の把握等、外国出生患者の対策に用いられます。

入国前結核スクリーニング受診の有無	1 あり
	2 なし
	3 不明

入国前結核スクリーニングとは、平成 30 年 2 月 26 日第 9 回厚生科学審議会結核部会での決定に基づき、厚生労働省が令和 2 年以降の導入を決めた、フィリピン、ベトナム、中国、インドネシア、ネパール、ミャンマーからの中長期滞在者を対象とした、入国前に結核発病の有無を調べる健診を指します。本制度以外の、例えば監理団体や大学などの教育機関及び企業などが独自に行なった入国前の健康診断は該当しません。

この項目は、出生国が「2 外国生まれ」の場合に入力可能となります。

職業区分	01 接客業等
	02 看護師, 保健師
	03 医師
	04 その他医療職、介護職
	05 教員、保育士
	06 小中学生
	07 高校生以上の生徒学生等
	08 その他常用勤労者
	09 その他の臨時雇、日雇
	10 その他自営業、自由業
	11 家事従事者
	12 保育園、幼稚園児
	13 その他の乳幼児
	14 無職
	15 その他
	16 不明

登録者本人の発病時の職業を入力して下さい。この分類は、その職業上結核感染を受けやすい、または他に感染させやすいか否か、つまりその職種について集団感染、集団発生についての対策が考慮されるべきか否か、という観点で構成されています。したがって勤務形態（パートタイムであるか否か等）、法的資格の有無や種類等に厳密にとられることなく、職業上のリスクに対してより慎重な立場から分類して下さい。後者についていえば、学習塾の教師、看護助手、他に職業をもった定時制高校生などは、それぞれ「05 教員、保育士」、「04 その他医療職」、「07 高校生以上の生徒学生等」に分類されます。2 種以上の分類に該当する場合は、本人の生活上の比重その他から判断して感染のリスクの大きい方を選んで下さい。この項目は登録後は更新され

ません。

この項目は、職業別の感染・発病リスクにもとづく対策(健診等)の情報として用いられます。

01 接客業等	公衆に結核を感染させるおそれがある業務に従事する者で、下記 02～05 に該当しない者
02 看護師, 保健師	保健師、看護師、助産師
03 医師	医師、歯科医師
04 その他医療職、介護職	理学療法士、作業療法士、放射線技師等。02, 03 以外の医療機関に勤務する感染リスクの固い者(医療施設等の施設に勤務する看護助手を含む)、介護職員。
05 教員、保育士	教員、保育士等
06 小中学生	小中学校、小学生以上の児童福祉施設内の児童を含める。
07 高校生以上の生徒学生等	修業年限 1 年以上の各種学校の生徒学生を含める。
08 その他常用勤労者	勤労労働者：常用労働者、勤労職員：民間職員・官公庁職員のいずれかに該当し、上記 01～05 に該当しない者。
09 その他の臨時雇、日雇	勤労労働者：日雇労働者に該当し、上記 01～05 に該当しない者。
10 その他自営業、自由業	自営業その他：販売・サービス職業従事者・製造作業 者、農林漁業作業 者、自由業者その他のいずれかに該当し、上の 01～05 に該当しない者。
11 家事従事者	一般家庭で家事に従事する者。
12 保育園、幼稚園児	就学前の者で、幼稚園、および児童福祉施設の児童を含める。
13 その他の乳幼児	就学前の者で、12 に該当しない者。
14 無職	
15 その他	
16 不明	

住所不定／ホームレス経験	1 あり
	2 なし
	3 不明

リストから選択します。

【定義】「ホームレス経験あり」は、過去1年以内にホームレス「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者（ホームレス支援法第2条より）」の経験があった者としてします。

この項目は、社会・経済的弱者の結核対策のための情報として用いられます。

自由2	～99
------------	-----

自由3	～99
------------	-----

保健所の自由設定項目を指定します。

【登録までの状況（1）】

転入の有無	1 あり
	2 なし

「あり」「なし」をリストで選択します。「あり」を選択すると確認メッセージが表示されその上での登録となります。転入者の登録は、転入前保健所から転出除外処理により送信された転入者情報をシステム上の転入処理で入手して登録します（オンライン転入）。

海外からの結核患者の転入を除き、システム上での患者情報の整合性の面から、原則はオンライン処理をして下さい。

転入前保健所（都道府県）

転入の有無で「あり」を選択すると全国の都道府県リストから選択可能になります。

転入前保健所（保健所）

転入の有無で「あり」を選択すると上で選択した都道府県の保健所リストから選択可能になります。

転入時期	年月日（転入処理は自動）
	直接入力（カレンダーor 手入力）

〔オンライン転入〕転入日は、転入情報受理を行った日となります。設定された時期に不都合が生じる場合は、変更することも可能です。

〔オフライン転入〕何らかの理由で、転入元保健所がない、あるいは情報を送信できない場合に行います。外国で治療を開始し、治療中に日本に入国した者も転入者として処理される例と考えられます。この場合は、国内での発病扱いにはならず、罹患数/率の対象にはなりません。

外国からの転入の場合、転入前保健所は未入力にしてください。

届出医療機関の種類

- 1 病院：大学
- 2 病院：公的
- 3 病院：法人
- 4 病院：個人
- 5 診療所
- 6 その他・不明

届け出を行った医師の所属する医療機関のコードを入力してください。大学病院とは、大学の医学部の教育研究に必要な附属施設である附属病院のことです。公的病院とは、都道府県、市町村、厚生労働大臣の定める者の開設する病院のことをいいます。

この項目は、結核患者の診断がなされている医療機関を把握することにより、診断の精度評価等の対策の情報に用います。

治療区分

- 1 初回治療
- 2 再治療
- 3 治療歴不明
- 4 潜在性結核感染症の治療

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。必要に応じて、リストから選択してください。感染症発生動向調査システムの「診断（検索）した者（死体）の類型」に「無症状病原体保有者」が選択された場合、治療区分の「4. 潜在性結核感染症の治療」に、それ以外の類型は「1. 初回治療」に移行されます。

「再治療」とは、結核に対する化学療法を過去に1ヶ月以上受け、かつ、その治療終了後2ヶ月以上経過しているものを指します。

化学療法を断続的に受けた者については、その通算期間が1ヶ月以上であるか否かで判断します。抗結核薬の服薬開始前に結核を発病し、外科的治療や安静治療を受け、現在再発した場合でも、化学療法を受けていないかぎりにおいて「1 初回治療」となります。

※治療区分で「治療歴不明」が選択されると、総合患者分類コード判定は「初回治療」として取り扱います。

前回整理番号

「登録中の再治療」での登録は自動転記

治療区分で「再治療」を選択した場合のみ入力可能となります。前回整理番号を入力します。

前回治療開始年 年 (元号 R. 令和 H. 平成 S. 昭和 U. 不明)

治療区分で「再治療」を選択した場合のみ入力可能となり、必須項目となります。

「再治療」で(d)前回治療開始時期が、昭和 64 年 1 月 1 日～昭和 64 年 1 月 7 日の場合には、「h. 平成 1 年」を入力してください。

発生動向報告 I D 14 桁のコード

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。原則として、「発生動向システムデータ連携」より入力してください。

前回治療内容

- 1 Z 含む治療あり
- 2 HR 含む治療あり
- 3 その他治療
- 4 潜在性結核感染症の治療
- 5 不明

治療区分で「再治療」を選択した場合のみ入力可能となり、必須項目となります。

この項目は、過去の治療内容と再発との関連等の情報として用います。

前回治療中断歴

- 1 あり
- 2 なし
- 3 不明

治療区分で「再治療」を選択した場合のみ入力可能となり、リストから選択します。

この項目は、過去の治療の中断歴と再発のリスク等の情報として用います。

【登録までの状況（2）】

患者発見方法	01 個別健康診断
	02 定期健診（学校）
	03 定期健診（住民）
	04 定期健診（職場）
	05 定期健診（施設）
	06 接触者健診（家族）
	07 接触者健診（その他）
	08 その他の集団検診
	09 医療機関（受診）
	10 医療機関（他疾患入院中）
	11 医療機関（他疾患通院中）
	12 その他
	13 不明
	14 登録中の健康診断（管理健診）

登録者の患者発見方法を入力してください。結核の診断を受けることになった動機に関わる分類です。したがって、健診を受けた人が精密検査や、経過観察を病院・診療所などで受けて結核の診断を受けた場合も、この項目は「01～08 健診」のうちのいずれかによる発見とみなされません。

「14. 登録中の健康診断」は管理健診等を指します。

この項目は、健診による患者発見の動向や、他疾患の検査中に発見された患者の動向など、国内で発生した患者の発見経緯を調べ対策に用いるための情報とします。

発見時呼吸器症状等の有無	1 呼吸器のみ
	2 呼吸器＋その他
	3 その他のみ
	4 症状なし（健診発見含む）
	5 不明

発見時呼吸器症状等の有無を入力して下さい。肺結核の発見のきっかけになったものが、呼吸器等の症状であったか否かをみるものです。ここでいう「呼吸器の症状」とは「咳、たん、血たん、喀血」を指し、「その他の症状」とは「喘鳴、胸痛、背部痛、息切れ、発熱、寝汗、全身倦怠、体重減少」を指すものとします。また発見時とは、厳密には「発見のきっかけになる行動を起こした時期」であって、例えば、そのような時に症状があり、結核の診断がついた時には症状が消

失ってしまっても、この項目は「1~3. あり」となります。
症状があった患者については、発見の遅れ期間の評価対象となります。

治療開始の有無	1 治療開始 2 治療せず
----------------	------------------

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。
死亡後登録や、潜在性結核感染症要治療者で服薬せずに経過観察などの場合は「2 治療せず」となります。

治療開始時期	年月日
---------------	-----

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。和暦で入力します。カレンダーから入力することができます。
実際に結核の化学療法が開始された時期を確認して入力して下さい。この時期は、治療期間の計算に使われます。
通常は必須項目ですが、治療開始前に死亡した等の特殊な状況下では未入力が可能です。その場合は確認指示メッセージが表示されますが、それを承認すれば登録できます。

発病（症状等の発現）の時期	年月日（上旬→5日、中旬→15日、下旬→25日）
----------------------	--------------------------

結核の症状が初めて自覚された時期（和暦）を入力して下さい。
この時期は、一つは感染性の患者がいつから排菌を始めたかの推定時点として、もう一つには結核患者が自分の症状に対して受診するまでの時間的経過を観察する上での基準の時点として用いられます。
肺結核の場合は「発見時呼吸器症状等の有無」の呼吸器症状等の出現時期、それがなければ結核の診断につながるその他の症状が初めて自覚された時期とします。
この情報は特に、結核と無関係の病気や症状で受診中に発見された場合に重要です。全くの偶然と考えられる場合、例えば、外傷や心臓病で受診中、胸部X線撮影で結核が発見されたというような場合には、この時期は入力されません。
この情報は原則として患者発生届けの「発病の時期」に基づきますが、上のような管理や指導の目的上、関係者の面接などにより確認することが望ましいと思われます。この場合、関係者の記憶が定かでない場合には、例えば「1月初めの頃＝1月5日」、「1月半ば＝1月15日」、「1月末＝1月25日」のような推定を援用する、あるいは「初診の時期」や「診断時期」との前後関係などから推定して下さい。なお、冒頭の記述にかかわらず、肺外結核でその症状が出現した時

期が知られている場合にはその日付を入力しても差し支えありません。

以前から慢性的な咳があるなど結核の症状出現時期の特定が困難な場合には、「感染症法に基づく結核の接触者健診の手引き」を参考に感染性の始期を推定し、その時期をあててください。この項目は、患者の受診の遅れの算出に用いられます。

初診の時期	年月日（上旬→5日、中旬→15日、下旬→25日）
--------------	--------------------------

登録患者が結核による症状を訴えて、初めて医療機関を受診した時期（和暦）を入力して下さい。ここでいう医療機関は、必ずしも結核と診断された医療機関と同じではありませんのでご注意ください。

「初診の時期」は、これと「発病の時期」との差から患者の受診行動の遅れの程度をみることを目的としています。したがって、原則として「発病の時期」の時期の記載の根拠となった症状を訴えて初めて受診した時期と考えます。

健診発見患者について、症状の有無に拘わらず検診の年月日を入力することは差し支えありませんが、その目的に照らせばこれはあくまでも参考所見となります。

不確実な時期の扱いは「発病の時期」の場合と同じです。

診断の時期	年月日
--------------	-----

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。和暦で入力します。カレンダーから入力することができます。

この項目は、初診の時期の情報から、診断の遅れ期間の算出に用いられます。

発病～初診の期間	1	2週未満
	2	2週以上 1月未満
	3	1月以上 2月未満
	4	2月以上 3月未満
	5	3月以上 6月未満
	6	6月以上
	7	不明
	8	該当せず

【自動設定】上記の「発病の時期」、「初診の時期」から計算して求められる期間であり、患者の適切な受診行動の遅れの長さを意味します。この項目は本システム内部で自動的に計算され、さらに上記のようにコード化されて、表示、登録されます。

初診～診断の期間	1	2 週未満
	2	2 週以上 1 月未満
	3	1 月以上 2 月未満
	4	2 月以上 3 月未満
	5	3 月以上 6 月未満
	6	6 月以上
	7	不明
	8	該当せず

【自動設定】上記の「初診の時期」と「診断の時期」とから計算して求められる期間であり、医療機関において結核の診断確定に費やされた時間を意味し、結核診断の早さの指標となります。コード化、分類等については「発病から初診までの期間」と同じです。

「発見時症状の有無」が「4 症状なし（健診発見含む）」の場合、（初診～診断）の項目で「8 該当せず」を表示します。

発病～診断の期間	1	2 週未満
	2	2 週以上 1 月未満
	3	1 月以上 2 月未満
	4	2 月以上 3 月未満
	5	3 月以上 6 月未満
	6	6 月以上
	7	不明
	8	該当せず

【自動設定】上記の「初診の時期」と「診断の時期」とから計算して求められる期間であり、発病後結核の診断確立、ひいては治療開始に至るまでの時間の経過を示します。患者行動や医療サービス全体を包括してみた患者発見の効果の指標です。コード化、分類については「発病から初診までの期間」に同じです。

「発見時症状の有無」が「4 症状なし（健診発見含む）」の場合、（発病～診断）の項目で「8 該当せず」を表示します。

感染源の有無

- 1 あり
- 2 なし・不明

「感染症発生動向調査システム：二類：結核」から、データが移行されます。
感染源の有無をリストから選択します

感染源

- 1 父親
- 2 母親
- 3 配偶者
- 4 祖父母
- 5 兄弟姉妹
- 6 子供
- 7 学校・塾（先生または生徒）
- 8 院内感染（他の患者/医療従事者）
- 9 職場関係
- 10 友人（学校・職場以外）
- 11 その他

感染源ありの場合リストから選択します。

登録時BCG接種歴

- 1 あり
- 2 なし
- 3 不明

BCG接種歴は、登録者が14歳以下の場合のみ入力可能です。BCG接種歴の有無をリストより選択、またはBCG接種歴の有無に対応した番号を直接入力して下さい。これも届け出や公費負担申請書の記載によりますが、潜在性結核感染症、小児患者については関係者の面接などを行って、是非とも入手しておきたい情報です。

コッホ現象の有無

- 1 あり
- 2 なし
- 3 不明

コッホ現象とは、すでに結核菌に感染した者にBCG接種をした際に、接種した部位に早期に生じる皮膚反応です。コッホ現象と考えられる皮膚反応が認められ、結核を発病している（小児結核患者）か、結核菌に感染していると判断された場合（潜在性結核感染症）に、「1 あり」を選択

してください。

この項目は、登録者が14歳以下の場合にのみ入力可能です。

潜在性結核感染症治療理由	1 接触者健診
	2 その他
	3 不明

潜在性結核感染症の場合、治療理由をリストから選択します。

【診断】

肺結核

肺結核	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

気管支結核	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

肺外結核

咽頭・喉頭結核	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

粟粒結核	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

結核性胸膜炎	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

結核性膿胸	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

肺門縦隔リンパ節結核	あり（チェック→1）
	なし（チェックなし→2）

他のリンパ節結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
結核性髄膜炎	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
腸結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
脊椎結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
他の骨・関節結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
腎・尿路結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
性器結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
皮膚結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
眼の結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
耳の結核	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
腹膜炎	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)

心膜炎	あり（チェック→1） なし（チェックなし→2）
-----	----------------------------

その他の臓器の結核	あり（チェック→1） なし（チェックなし→2）
-----------	----------------------------

画面上に表示されている診断名から該当するものにチェックして選択します。「登録までの状況（1）」タブページの治療区分が「4. 潜在性結核感染症の治療」である場合、入力できません。

それ以外の場合は必須項目です。

肺結核と肺外結核、両方の診断名にチェックがある場合は、総合患者分類コードは肺結核となります。ただし、肺外結核の粟粒結核にチェックがついている場合は、総合患者分類コードは肺結核にチェックされていても、肺外結核となります。

【合併症】

糖尿病	1 あり 2 なし 3 不明
-----	----------------------

糖尿病を合併していると結核の発病や再発のリスクが高く、治療も難しいという点で特別の注意の要るケースです。

HIV	1 検査実施陽性 2 検査実施陰性 3 検査未実施 4 不明
-----	---

HIV では、検査をした事実がなければ、検査未実施としてください。検査の実施が不明の場合は不明としてください。

HIV 陽性患者は結核感染・発病リスクが高く、世界的に HIV 合併結核の対策は重要課題となっているため、その情報収集を目的としています。

その他の合併症	糖尿病、H I V以外の合併症名を入力
---------	---------------------

【X線】

X線撮影時期	年月日（カレンダー or 手入力）
---------------	-------------------

胸部X線撮影の時期を入力して下さい。この時期は、初診年月日以降でなければなりません。治療中の肺外結核については必ずしも記入しなくてもかまいませんが、胸部以外の部位のX線検査が行われた場合に、その時期を入力することは差し支えありません。肺外結核や潜在性結核感染症の治療者では、肺結核が発病していないことを確認するために胸部X線撮影をしますので、原則として胸部X線撮影年月を入力して下さい。

学会分類部位	1 r
	2 l
	3 b
	4 該当なし

この項目は上の胸部X線撮影の所見を記載するものです。これを入力するに先だってX線撮影時期が必ず入力されていなければなりません。X線所見の学会分類（部位）を入力して下さい。

1 : r	病変が右側のみに限局している場合。
2 : l	病変が左側のみに限局している場合。
3 : b	病変が両側にある場合。rpl + lⅢ2 のように異なる性状の病変が個々に各側にある場合には両側性とみなしてここに該当させる。
4 : 該当なし	肺外結核、「性状 : V 型」、「性状 : 0」の場合。

学会分類性状	1 I 型
	2 II 型
	3 III 型
	4 p I 型
	5 H 型
	6 o p 型
	7 IV 型
	8 V 型
	9 O 型
	10 不明・該当せず

この項目は上の胸部X線撮影の所見を記載するものです。これを入力するに先だってX線撮影時期が必ず入力されていなければなりません。X線所見の学会分類（性状）を入力して下さい。病変の種類や形状を記載するための項目です。「r II 2」、「pl」のように2つ以上の性状をあわせもつ場合には、それらのうちから以下のコード番号の若い方に該当する性状を主要病変として入力して下さい。なお、学会分類と治療の要否とは直接の関係はありません。I型、II型、III型でも要治療でないこともあるし、IV型、O型で要治療のことも有り得ます。

1 I型	広汎空洞型
2 II型	その他の空洞型
3 III型	不安定非空洞型
4 pl型	plV（胸膜癒着像）等はV型と扱う
5 H型	肺門リンパ節結核
6: op型	肺結核の外科手術後の状態
7: IV型	安定非空洞型
8: V型	治癒型
9: O型	撮影の結果、無所見のとき。肺結核を合併していない肺外結核のみの場合や、肺結核でその治療のために所見が消失したり、気管支結核の場合。
10: 不明・該当せず	

学会分類拡がり	1	1
	2	2
	3	3
	4	該当なし

この項目は、上の胸部X線撮影の所見を記載するものです。これを入力するに先だってX線撮影時期が必ず入力されていなければなりません。X線所見の学会分類（拡がり）を直接入力して下さい。上記（2）で性状を記載された病変（主要病変）の性状がI、II、III、IV型に該当する場合にその大きさを表現するための項目です。肺外結核、あるいは肺結核で「性状：V型、pl型、op型」もしくは「性状：O」の場合は「4 該当なし」となります。

【細菌学的検査（検体1）】

検体採取時期

年月日（カレンダー or 手入力）

菌検体の採取時期を入力して下さい。主として喀痰あるいは喉頭粘液の塗抹、培養によりますが、胃液、気管支洗浄液、尿や膿あるいは他の組織標本の細菌学的検査のための検体を採取した年月です。培養所見に基づいて結核の診断が下される場合のように、この時期が登録時期よりも前であることもあり得ます。いずれにせよ、この年月は、X線撮影時期とともに病状更新が時間的にしかるべく行われたか否かを判断するための重要な情報です。

検体種類

- 1 喀痰
- 2 咽頭粘液等
- 3 胃液
- 4 気管支・肺胞洗浄液
- 5 穿刺液
- 6 膿・浸出液
- 7 尿
- 8 組織
- 9 その他
- 10 不明

下記の「塗抹検査結果」が「陽性」あるいは「培養検査結果」が「陽性」あるいは「結核菌群核酸増幅法検査結果」が「陽性」の場合のみ、入力可能となります。

塗抹検査結果

- 1 陽性
- 2 陰性
- 3 検査未実施
- 4 不明

上記の時期に行われた検査の結果です。菌検査結果（塗抹検査結果）を入力して下さい。「不明」と入力した場合、後日検査結果が判明した後速やかに、該当する「陽性」・「陰性」・「未実施」のいずれかに訂正してください。

塗抹菌量	1	± (G1)
	2	1 + (G2)
	3	2 + (G3~G6)
	4	3 + (G7~G10)
	5	菌数不明

上記「塗抹検査結果」が「陽性」の場合にのみ、入力可能となります。

培養検査結果	1	結核菌陽性
	2	結核菌陰性
	3	検査中
	4	検査中止（雑菌汚染等）
	5	検査未実施
	6	不明

上記の時期に行われた培養検査の結果です。菌検査結果（培養等検査結果）を入力して下さい。
「検査中」あるいは「不明」と入力した場合、後日検査結果が判明した後速やかに、該当する「陽性」・「陰性」・「検査中止（雑菌汚染等）」・「検査未実施」のいずれかに訂正してください。特に登録時の培養検査結果が「検査中」から結果把握後に訂正されない場合は、検査結果未把握とされますので、ご注意ください。

結核菌群核酸増幅法検査結果	1	TB 陽性
	2	TB 陰性
	3	TB 未実施
	4	不明

リストから選択します。1番目の履歴のみ入力可能となります。

核酸増幅法（PCR等）の結果を入力してください。「不明」と入力した場合、後日検査結果が判明した後速やかに、該当する「陽性」・「陰性」・「未実施」のいずれかに訂正してください。

【細菌学的検査（検体 2）】

□の中をチェックすると【細菌学的検査（検体 2）】が、入力可能になります。

検体採取時期

年月日（カレンダー or 手入力）

菌検体の採取時期を入力して下さい。例えば、【細菌学的検査（検体 1）】で喀痰の結果が陰性で、喀痰以外の検体で陽性が出た場合に【細菌学的検査（検体 2）】にその情報を入力して下さい。検体 2 を入力した場合、検体 1、検体 2 それぞれで菌所見コードが計算され若番優先（陽性優先）で総合患者分類に用いられます。

検体種類

- 1 喀痰
- 2 咽頭粘液等
- 3 胃液
- 4 気管支・肺胞洗浄液
- 5 穿刺液
- 6 膿・浸出液
- 7 尿
- 8 組織
- 9 その他
- 10 不明

下記の「塗抹検査結果」が「陽性」あるいは「培養検査結果」が「陽性」あるいは「結核菌群核酸増幅法検査結果」が「陽性」の場合のみ、入力可能となります。

塗抹検査結果

- 1 陽性
- 2 陰性
- 3 検査未実施
- 4 不明

上記の時期に行われた検査の結果です。菌検査結果（塗抹検査結果）を入力して下さい。「不明」が後日判明した場合は、該当する「陽性」「陰性」「未実施」に訂正してください。

塗抹菌量	1	± (G1)
	2	1 + (G2)
	3	2 + (G3~G6)
	4	3 + (G7~G10)
	5	菌数不明

「塗抹検査結果」が「陽性」の場合のみ、入力可能となります。

培養検査結果	1	結核菌陽性
	2	結核菌陰性
	3	検査中
	4	検査中止（雑菌汚染等）
	5	検査未実施
	6	不明

上記の時期に行われた検査の結果です。菌検査結果（培養等検査結果）を入力して下さい。「検査中」あるいは「不明」が後日判明した場合は、該当する「陽性」「陰性」に訂正して下さい。特に登録時の培養検査結果が「検査中」から結果把握後に訂正されない場合は検査結果未把握とされますので、ご注意ください。

結核菌群核酸増幅法検査結果	1	TB 陽性
	2	TB 陰性
	3	TB 未実施
	4	不明

リストから選択します。1番目の履歴のみ入力可能となります。

核酸増幅法（PCR等）の結果を入力して下さい。「不明」が後日判明した場合は、該当する「陽性」「陰性」「未実施」に訂正して下さい。

【感受性検査結果】

肺結核菌培養最終菌陽性時期	年月日 (肺結核検体採取時期から自動転記)
---------------	--------------------------

【自動設定】

「塗抹検査結果」、「培養陽性検査結果」、「結核菌群核酸増幅法検査結果」のいずれかが「陽性」であれば、それに連動する検体採取時期が自動的に転記されます。新しい時期の「陽性」情報が追加された場合には、自動的に新しい時期に書き換えられます。また、最終菌陽性時期に連動する「陽性」の情報が消去された場合には、残っている陽性情報の中で最も新しい時期に変更されます。

感受性検査検体採取時期	年月日 (カレンダー or 手入力)
-------------	--------------------

『肺』あるいは『肺外』の両方に適用します。検体を採取した時期を和暦で入力します。カレンダーから入力することができます。

感受性検査 (INH) INH: イソニコチン酸ヒドラジド	1 耐性 2 感受性 3 未実施 4 不明
----------------------------------	--------------------------------

感受性検査 (RFP) RFP: リファンピシン	1 耐性 2 感受性 3 未実施 4 不明
-----------------------------	--------------------------------

感受性検査 (SM) SM: ストレプトマイシン	1 耐性 2 感受性 3 未実施 4 不明
-----------------------------	--------------------------------

感受性検査 (EB) EB: エタンブトール	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

感受性検査 (LVFX) LVFX: レボフロキサシン	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

感受性検査 (MFLX) MFLX: モキシフロキサシン	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

感受性検査 (BDQ) BDQ: ベダキリン	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

INH と RFP が耐性 (多剤耐性結核) の時のみ入力可

感受性検査 (LZD) LZD: リネゾリド	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

INH と RFP が耐性 (多剤耐性結核) の時のみ入力可

感受性検査 (DLM) DLM: デラマニド	1 耐性
	2 感受性
	3 未実施
	4 不明

INH と RFP が耐性 (多剤耐性結核) の時のみ入力可

【治療状況】

受療状況	1 入院治療中 2 他疾患入院治療中 3 外来治療中 4 治療なし 5 不明
------	--

受療状況をリストより選択、または受療状況に対応した番号を直接入力して下さい。登録者が結核の治療を受けているかいるか否か、を受けている場合入院・外来の区別を見る項目です。ここでいう結核の治療「1. 入院治療中、2. 他疾患入院治療中、3. 外来治療中」とは、抗結核薬を用いた治療を受けている場合であって、結核以外の病気の治療や結核の後遺症の治療は含まれません。

1 入院治療中	結核の治療を主たる目的とした入院であって、通常は結核病床での治療を指す。たまたま他の病気で入院しながら結核の治療を受けているような場合は「2. 他疾患入院治療中」である。
2 他疾患入院治療中	
3 外来治療中	
4 治療なし	医師の指示のいかに係わらず、上に述べた結核の治療を受けていない場合。
5 不明	

総合患者分類コード (登録時)	1 肺結核活動性喀痰塗抹陽性初回治療 2 肺結核活動性喀痰塗抹陽性再治療 3 肺結核活動性 その他の菌陽性 4 肺結核活動性 菌陰性その他 5 肺外結核 活動性 8 潜在性結核感染症 (治療中)
--------------------	--

【自動設定】 治療区分、診断名、菌所見コード、治療の要否、情報の時期等から自動的に設定されます。

使用抗結核薬

INH イソニコチン酸ヒドラジド	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
RFP リファンピシン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
PZA ピラジナミド	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
SM ストレプトマイシン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
EB エタンブトール	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
KM カナマイシン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
EVM エンビオマイシン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
TH エチオナミド	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
CS サイクロセリン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
PAS パラアミノサリチル酸	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)

RBT リファブチン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
LVFX レボフロキサシン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
CFZ クロファジミン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
BDQ ベダキリン	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
LZD リネゾリド	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
DLM デラマニド	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
その他	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
予備	あり (チェック→1) なし (チェックなし→2)
自由 4	~99

保健所の自由設定項目を指定します。設定項目は使用薬剤に関連するものが勧められます。

化療内容コード

- 1 INH 及び RFP (RBT) 及び PZA と EB または SM の 4 剤併用
- 2 上記以外の INH 及び RFP (RBT) 及び PZA を含む 3 剤以上併用
- 3 上記以外の INH 及び RFP (RBT) を含む 3 剤以上
- 4 INH 及び RFP (RBT) の 2 剤併用
- 5 その他の 2 剤併用
- 6 その他の 3 剤以上併用
- 7 INH 単独
- 8 その他の単独
- 9 化療なし
- 10 不明

【自動設定】 使用抗結核薬による組合せコードで、使用抗結核薬の入力内容によって自動的に設定されます。その分類区分の中で2剤とか3剤とかいうのは、「抗結核薬」の種類の数であって、副腎皮質ホルモン剤やその他の薬剤は数に入れません。

この項目は、化療内容別の集計表に使用され、国内の結核治療の現状把握のための情報として用いられます。

保険の種類等

- 01 被用者本人
- 02 被用者家族
- 03 国保一般
- 04 国保退職本人
- 05 国保退職家族
- 06 後期高齢者
- 07 生活保護法(受給中)
- 08 生活保護法(申請中)
- 09 その他
- 10 不明

登録者に該当する保険の種類等を入力して下さい。登録者全員について入力対象であり、現在治療中でない者であっても入力して下さい。

01 被用者本人	組合管掌健康保険、各種の共済組合、全国健康保険管掌健康保険、船員保険および日雇健康保険などの被保険者
02 被用者家族	上記の被保険者の被扶養者
03 国保一般	市町村の国民健康保険の被保険者およびその被扶養者
04 国保退職本人	
05 国保退職家族	
06 後期高齢者	長寿医療（後期高齢者医療）の被保険者。75歳以上（一部 65-74 歳）
07 生活保護法(受給中)	「01. 被用者本人」、「02. 被用者家族」に該当しないで生活保護法によるなんらかの扶助を受けている者
08 生活保護法(申請中)	上記参照
09 その他	戦傷者特別援護法、精神衛生法などの適応を受けている者、あるいは自費治療などの場合
10 不明	

公費負担区分	1	37-2 条
	2	37 条
	3	不承認
	4	その他適用なし

リストから選択します。

「公費負担区分」が「37 条の 2」（以前の「34 条」）又は「37 条」（以前の「35 条」）の場合のみ、「承認開始時期」、「承認番号」、「承認期間」、「承認終了時期」を入力できます。「公費負担区分」が「不承認」と「その他適用なし」の場合、「承認開始時期」と「承認期間」「承認終了時期」は必須ではありませんが、「承認開始時期」を入力すれば、「承認期間」と「承認終了時期」の入力は必須となります。

「治療の要否」が「2. 治療不要」の場合は、「公費負担区分」を「4. その他適用なし」にしてください。

公費負担状況	1 新規
	2 継続
	3 変更
	4 該当せず
	5 不明

リストから選択します。

公費負担承認開始時期	年月日（カレンダー or 手入力）
-------------------	-------------------

「公費負担区分」を入力すると入力できます。カレンダーから入力することができます。

公費負担承認番号	1～9999999 （7桁）
-----------------	----------------

最大7桁入力できます。

公費負担承認期間	1～6の数値
-----------------	--------

最大6ヶ月、1～6の数字を入力できます。なお、1より小さい場合は1,6より大きい場合は6が自動的に表示されます。

公費負担終了時期	年月日（カレンダー or 手入力）
-----------------	-------------------

承認終了時期が承認開始時期より以前の日付の場合はエラーとなります。

入院勧告・措置の有無	1 あり（勧告）
	2 あり（措置）
	3 なし

リストから選択します。以前の命令入所「1.あり」のデータは、「1.あり（勧告）」になります。以前の命令入所「2.なし」のデータは「3.なし」となります。

診査協議会実施時期

年月日（カレンダー or 手入力）

カレンダーから入力することができます。診査協議会用帳票を出力させるためには、この時期の入力が必要です。

医療機関名称

自動設定より選択 or 手入力

〔リストから選択〕 このリストは自由設定項目管理画面（登録者）の「自由5（医療機関）」に設定した内容を表示します。以前に入力した名称の選択も可能です。

〔手入力〕 画面から入力します。

医療機関種類

- 1 病院：大学
- 2 病院：公的
- 3 病院：法人
- 4 病院：個人
- 5 診療所
- 6 その他・不明

リストから選択します。

備考（1） 病診連携用

全角 10、半角 20（医療機関種類の下）

備考として入力が可能です。

結核治療のための最初の入院

入院時期

年月日（カレンダー or 手入力）

結核の治療を目的とした入院した年月日を入力して下さい。菌陰性の患者等で、他の疾患の治療のため入院し、そこで結核治療も行なっている場合は対象となりません。

「入院」では時期を上旬、中旬、下旬で選択することができます。この場合、データベースに書き込まれる時には、
上旬=5、中旬=15、下旬=25 で計算されます。

下記の入院期間の算出等に用いられ、結核病床数の検討のための情報などにも用いられます。

退院時期

年月日（カレンダー or 手入力）

結核の治療を目的とした入院に対する退院年月日を入力して下さい。退院時期は、入院勧告書にある退院の日付ではなく、実際に退院した日付ですので、ご注意ください。

「退院」では時期を上旬、中旬、下旬で選択することができます。この場合、データベースに書き込まれる時には、 $上旬=5$ 、 $中旬=15$ 、 $下旬=25$ で計算されます。

入院期間

日

自動計算（植木算）

【自動設定】

入院時期と退院時期より、自動的に算出されます。

（計算式：退院時期 - 入院時期 + 1日）

【備考】

診査協議会 対象者備考

対象者についての情報を、自由に文字や数字を利用して、メモ的に記入できます。記載された内容は、時期指定クイック検索で、診査協議会対象者一覧を作成した場合、備考欄に表示されます。

診査協議会 意見備考

結核協議会意見について、自由に文字や数字を利用して、メモ的に記入できます。記載された内容は、時期指定クイック検索で、診査協議会結果一覧を作成した場合、備考欄に表示されます。

コホート・DOTS 備考

コホート・DOTS関係の情報を、自由に文字や数字を利用して、メモ的に記入できます。これはコホート（1）の備考でもあり、双方から記入できます。

その他備考

その他登録者の情報を、自由に文字や数字を利用して、メモ的に記入できます

Ⅱ. 治療中の情報

情報の時期

年月日（カレンダー or 手入力）

- 1 番目には、登録時期と登録時情報の菌検査情報が自動的に表示されます。
- 2 番目以降の情報から、手入力します。入力した内容は、「現在時情報」に反映します。情報の時期はその情報（結果）を保健所が入手した時期ではなく、その情報の対象となる事象が発生した時期です。基本的に対象とする検体採取時期、公費負担時期と一致させます。

検体採取時期

年月日（カレンダー or 手入力）

菌検体の採取時期を入力して下さい。主として喀痰あるいは喉頭粘液の塗抹、培養によりますが、胃液、気管支洗浄液、尿や膿あるいは他の組織標本の細菌学的な検査の検体を採取した年月です。培養所見に基づいて結核の診断が下される様な場合にみられるように、この時期が登録時期よりも古いこともあり得ます。

いずれにせよ、この年月はX線撮影時期とともに病状更新が時間的にしかるべく行われたか否かを判断するための重要な情報です。

検体種類

- 1 喀痰
- 2 咽頭粘液等
- 3 胃液
- 4 気管支・肺胞洗浄液
- 5 穿刺液
- 6 膿・浸出液
- 7 尿
- 8 組織
- 9 その他
- 10 不明

下記の「塗抹検査結果」が「陽性」あるいは「培養検査結果」が「陽性」あるいは「結核菌群核酸増幅法検査結果」が「陽性」の場合のみ、入力可能となります。

塗抹検査結果

- 1 陽性
- 2 陰性
- 3 検査未実施
- 4 不明

上記の時期に行われた検査の結果です。菌検査結果（塗抹検査結果）を入力して下さい。「不明」が後日判明した場合は、該当する「陽性」「陰性」「未実施」に訂正して下さい。

培養検査結果

- 1 結核菌陽性
- 2 結核菌陰性
- 3 検査中
- 4 検査中止（雑菌汚染等）
- 5 検査未実施
- 6 不明

上記の時期に行われた検査の結果です。菌検査結果（培養等検査結果）を入力して下さい。「検査中」あるいは「不明」が後日判明した場合は、該当する「陽性」「陰性」に訂正して下さい。

公費負担区分

- 1 37-2 条
- 2 37 条
- 3 不承認
- 4 その他適用なし

リストから選択します。

「公費負担区分」が「37 条の 2」（以前の「34 条」）又は「37 条」（以前の「35 条」）の場合のみ、「承認開始時期」、「承認番号」、「承認期間」、「承認終了時期」を入力できます。「公費負担区分」が「不承認」と「その他適用なし」の場合、「承認開始時期」と「承認期間」「承認終了時期」は必須ではありませんが、「承認開始時期」を入力すれば、「承認期間」と「承認終了時期」の入力は必須となります。

「治療の要否」が「2. 治療不要」の場合は、「公費負担区分」を「4. その他適用なし」にしてください。

公費負担承認開始時期 ／公費負担情報時期	年月日（カレンダー or 手入力）
--------------------------------	-------------------

「区分」を入力すると入力できます。カレンダーから入力することができます。

公費負担承認期間	1～6 の数値
-----------------	---------

最大 6 ヶ月、1～6 の数字を入力できます。なお、1 より小さい場合は 1, 6 より大きい場合は 6 が自動的に表示されます。

公費負担終了時期	年月日（カレンダー or 手入力）
-----------------	-------------------

承認終了時期が承認開始時期より以前の日付の場合はエラーとなります。

Ⅲ. 現在時情報

初期設定として、登録時情報がそのまま入っています。必要な箇所を追加・訂正してください。

情報の時期

年月日（カレンダー or 手入力）

現在時情報の「情報の時期」について：菌検査結果は菌検体採取時期、X線結果はX線撮影時期に対応しています。これ以外の情報（診断名、合併症、治療の要否、受療状況、使用抗結核薬、医療機関）については、その状態であった時期を「情報の時期」で管理しています。保健所がこの状態についての情報を入手した時期ではありませんので、ご注意ください。

【治療の要否】

治療の要否

- | |
|-----------------|
| 1 要治療
2 治療不要 |
|-----------------|

治療の要否を入力して下さい。結核の治療が必要か否かについての主治医の判断を入力して下さい。2回目以降の公費負担申請が不合格の場合や、あるいは何らかの都合で公費負担申請がなされなくても、主治医から結核の治療の指示が出ていれば「1. 要治療」となります。潜在性結核感染症で服薬を続ける者も同じです。

治療が終了したら治療不要にして下さい。治療不要にした場合は、併せて、【治療状況】の受療状況を治療なし、公費負担区分をその他適応なしにして下さい。

最終病状把握時期

年月日（カレンダー or 手入力）

登録中の患者について、病状を保健所が把握した患者のその病状の時期について入力してください。具体的には管理健診の実施日等になります。保健所が情報を入手した時期ではないことにご注意ください。住民健診などを管理健診に代えた場合でも保健所がその情報を入手した時期ではなく、その住民健診実施日となります。この最終病状把握時期をもとに病状不明者（活動性不明）の判定を行いません。判定日より180日以内にこの最終病状把握時期がない場合は病状不明（活動性不明）となります。

【治療成績】

治療成績保健所入力 (活動性結核)	1 治癒
	2 完了
	3 死亡
	4 失敗
	5 脱落中断
	6 転出
	7 治療中
	8 不明

治療成績保健所入力 (潜在性結核感染症)	2 完了
	3 死亡
	4 失敗
	5 脱落中断
	6 転出
	7 治療中
	8 不明

保健所において、患者の治療経過を検討した後、患者の最終治療成績を入力してください。治療内容変更や治療中断後の治療復帰などは、最終的な患者の治療転帰を判定してください。

各成績判定の定義について

活動性結核:多剤耐性結核でない患者

治癒	国の治療基準(「結核医療の基準」)に従った治療が最後まで終了し、治療最終月およびそれ以前に少なくとも1回の培養陰性が確認された場合(最低2回の培養陰性)。
完了	治療が最後まで終了したが、治癒の条件にあてはまらない場合。培養検査未実施または培養検査結果未把握も含まれる。
死亡	治療開始前、および治療期間中に死亡した場合。結核死だけでなく、全ての死亡が含まれる。
失敗	治療開始から5ヶ月目以降に採取された検体で培養陽性が確認され、その後抗結核薬を使用した治療が適用できず治療を中止している場合。

脱落中断	死亡以外で治療を開始しなかった場合、または治療が連続で2ヶ月以上中断し、その後治療に復帰しなかった場合。必要とされる治療期間に満たずに治療を終了した場合。副作用等による医師からの指示中止も含まれる。
転出	患者が国内他保健所、または国外へ紹介のうえ転出した後、治療結果を把握できない場合
治療中	治療成績判定時期において、結核治療を継続している場合。治療内容を変更した後の治療が継続している場合、途中で治療を中断した後に治療に復帰し治療が継続されている場合も含まれる。
不明	保健所において治療成績を判定できない場合

(参考)

1. 治療成功：治癒と治療完了をあわせたもの。
2. 転出先保健所により治療結果が更新された場合は、転出元保健所でも、その結果がシステム内で自動的に変更されます。
3. 登録時情報画面の治療区分を活動性結核⇔潜在性結核の変更が行われた場合、治療成績保健所入力の入力内容がクリアされますのでご注意ください。

(注)

1. 治療開始後5か月目以降に培養陽性となった場合でも治療を継続している場合は、その治療の成績を入力する。治療を止めた場合に治療失敗とする。
2. 2か月以上治療を中断した場合でも、その後治療区分を変更せず（再治療として再登録せず）治療に復帰し、必要となる治療期間の治療を終えた場合は、その治療の成績を入力する。再治療（結核に対する化学療法を過去に1ヶ月以上受け、かつ、その治療終了後2ヶ月以上経過しているもの）の場合は、はじめの治療成績は治療中断とし、「登録中の再登録」より登録除外となる。
3. 肺外結核の成績判定も上記と同じであるが、病類によっては必要とする治療期間が長くなる場合があるので、主治医の指示のあった治療期間を判定基準とする。

活動性結核：多剤耐性結核 (MDR)

治癒	国の MDR 治療基準（「結核医療の基準」）に従った治療を完了し、治療失敗の定義にはあてはまらず、かつ治療強化期以降で 30 日以上の間隔で連続 3 回の培養陰性
完了	国の MDR 治療基準に従った治療を完了し、治療失敗の定義にはあてはまらないが、治療強化期以降で 30 日以上の間隔で連続 3 回の培養陰性が確認されていないもの。
死亡	治療開始前、および治療期間中に死亡した場合。結核死だけでなく、全ての死亡が含まれる。
失敗	以下の理由等から治療を中止した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化期の終了時に陰転化がみられない ・ 陰転化後、維持期において再陽性化 ・ キノロン系、注射二次薬の獲得耐性が判明 ・ 副作用のため
脱落中断	死亡以外で治療を開始しなかった場合、または治療が連続で 2 ヶ月以上中断し、その後治療に復帰しなかった場合。必要とされる治療期間に満たずに治療を終了した場合。副作用等による医師からの指示中止も含まれる。
転出	患者が国内他保健所、または国外へ紹介のうえ転出した後、治療結果を把握できない場合
治療中	治療成績判定時期において、結核治療を継続している場合。治療内容を変更した後の治療が継続している場合、途中で治療を中断した後に治療に復帰し治療が継続されている場合も含まれる。
不明	保健所において治療成績を判定できない場合

潜在性結核感染症 (LTBI)

完了	国の結核医療の基準にある潜在性結核感染症治療レジメンに従った治療およびそれに準じた治療を完了した者。
死亡	治療期間中に死亡した場合。結核死だけでなく、全ての死亡が含まれる。
失敗	潜在性結核感染症の治療中に活動性結核を発病した場合。
脱落中断	「潜在性結核治療指針」では、180日分を1年の間に服薬すれば効果はある、規定の日数の内服量を規定の日数の2倍以内に内服できる見通しがあれば再内服を勧める、とある。これにあてはまらず、はっきりと治療を中断した場合。または、服薬治療を開始しなかった場合。
転出	患者が国内他保健所、または国外へ紹介のうえ転出した後、治療結果を把握できない場合
治療中	中断しているが、再内服を開始した、またはする見込の場合
不明	保健所において治療成績を判定できない場合

(注)

1. INH9 か月治療を予定していたが治療開始6か月以降に脱落中断した場合は、主治医の判断により治療完了の判定を行なう。
2. 潜在性結核感染症治療中に活動性結核発病の場合（治療開始時の活動性結核発病が否定されている場合）は、潜在性結核感染症治療は治療失敗として「登録中の再登録」から登録除外する。以降、システム上で自動的に登録処理された活動性結核患者として情報の更新をする。
3. 潜在性結核感染症治療中に活動性結核発病の場合で、治療開始時の潜在性結核が否定された場合は、最初の潜在性結核の登録は転症除外とし、潜在性結核感染症としての登録は撤回となる。したがって潜在性結核感染症の治療成績は不要である。
4. 潜在性結核感染症として登録されたのにもかかわらず、治療を開始しなかった場合は「脱落中断」とする。ただし潜在性結核感染症治療完了率算出の分母からは除く。

【診断】、【合併症】、【X線】、【細菌学的検査】、【感受性検査結果】、【治療状況】は「登録時情報」と同じで、追加・訂正し、更新してください。

総合患者分類コード
(現在時/年末時)

- 1 肺結核活動性喀痰塗抹陽性初回治療
- 2 肺結核活動性喀痰塗抹陽性再治療
- 3 肺結核活動性 その他の菌陽性
- 4 肺結核活動性 菌陰性その他
- 5 肺外結核 活動性
- 6 不活動性結核
- 7 活動性不明
- 8 潜在性結核感染症（治療中）
- 9 潜在性結核感染症（観察中）

【自動設定】 治療区分、診断名、菌所見コード、治療の要否、情報の時期等から自動的に設定されます。治療の要否が治療不要になると、総合患者分類コードは不活動性結核になります。潜在性結核感染症の場合は、治療中から観察中になります。

年末時情報においては、最近 180 日以内に最終病状把握時期がない場合に、活動性不明になります。ただし、現在時情報においては、情報そのものは変更されずに、集計表やクイック検索の際に、便宜的に活動性不明をたてて計算、表示されます。

【終了・除外】

治療終了時期 年月日（上旬→5日、中旬→15日、下旬→25日）

結核の治療を終了した時期（服薬の最終日）を、患者との面接や医師連絡などから得られた情報に基づいて入力して下さい。ただし、終了の理由は問いません。

「治療終了時期」では、上旬、中旬、下旬を選択することができます。この場合、データベースに書き込まれる時には上旬=5、中旬=15、下旬=25で計算されます。

治療終了理由

- 1 治療完遂
- 2 副作用等による中止
- 3 他の指示中止
- 4 自己中止（治療非協力）
- 5 行方不明
- 6 帰国
- 7 結核死亡終了
- 8 結核外死亡終了
- 9 不明

リストから選択します。

「終了時期」が入力されると入力が可能となります。

治療期間（日） 日 自動計算（植木算）

【自動設定】

「治療開始時期」「終了時期」より自動的に算出します。

（計算式：治療期間 = 終了時期 - 治療開始時期（治療開始時期が設定されない場合は登録時期） + 1日）

除外（転出）時期 年月日（カレンダー or 手入力）

登録除外を決定した時期を入力して下さい。死亡や転出による除外であっても、必ずしもこれらの出来事があった時点ではありません。

登録除外理由

- 1 観察不要
- 2 結核死亡
- 3 結核外死亡
- 4 転症・他
- 5 国内転出
- 6 国外転出
- 7 登録中の再登録
- 8 他の理由
- 9 死亡原因不明

除外理由を入力して下さい。

死亡除外の場合で、死亡が結核死亡か結核外死亡か不明の場合は、「9 死亡原因不明」で入力してください。

「除外理由」が「6 登録中の再登録」の場合、新しい整理番号を使って、当該登録者の情報の一部を複写して、新しい登録者データを作成します。これは自動的に行われ、新しいデータの「治療歴」は「再治療」になります。複写前の情報を前回の治療歴として管理します（「登録までの状況（1）」のみが複写されます）。このデータを直ちに修正することをお勧めします。

「6 登録中の再登録」で一度除外した者の履歴データを再度修正すると、再び新たな整理番号のデータが生成されてしまいます。この場合の生成データは不要ですので、直ちに登録消去を行ってください。

「除外理由」が「4 転症・他」となった場合、「登録状況」が自動的に「3 撤回」に変わります。なお、「登録状況」は自動的に設定されるもので入力項目にはありません。登録者一覧画面でのみ確認できます。

1 観察不要	結核が十分安定して観察不要と判定された場合。
2 結核死亡	死亡し、その原死因が結核である場合。
3 結核外死亡	死亡し、その原死因が結核以外の場合。
4 転症・他	治療の理由となった病気が結核でない(結核の届出基準を満さない)と判断された場合等。
5 国内転出	他保健所管内に転出し、登録票が移送される場合。
6 国外転出	国外に転出した場合。
7 登録中の再登録	治療終了後観察期間中の再発、潜在性結核感染症からの発病等。
8 他の理由	行方不明、病状不明が長期に続き、保健所長の判断で登録から抹消される場合。
9 死亡原因不明	死亡し、その原死因が不明の場合。

死亡時期

年月日（カレンダー or 手入力）

カレンダーからの入力もできます。

死亡までの期間（日）

日 自動計算（植木算）

【自動設定】

「治療開始時」「死亡時期」より、自動的に算出します。

（計算式：死亡までの期間 = 死亡時期 - 治療開始時期（治療開始時期が設定されない場合は登録時期） + 1 日）治療開始時が未入力の場合、治療開始時の代わりに登録時期で計算します。死亡時期が未入力の場合、死亡時期の代わりに除外時期で計算します。計算結果がマイナスの場合、ゼロを表示します。

転出先保健所（都道府県）

リストから選択します。

転出先保健所（保健所）

リストから選択します。転出による除外はオンラインで転出先保健所への転出が処理されます。転出先保健所を入力することにより、その保健所へ登録者が転送されます。転出先保健所では基本処理の転入情報受理処理で、登録者の転入を行うことができます。また転出除外は実行したいが、転送処理を保留にしておきたい場合には、保健所名を未入力にしてください。この場合は後日、保健所名を入力し更新することで転送処理を行うことができます。なお、外国への転出の場合も保健所名は未入力です。